平成29年度 サマーセミナー

日 時:平成29年7月7日金~8日生

会 場:ホテルサンバレー那須 他

1日目

〈第1部 講演会〉

演題:「栃木県の地方創生の取組について」

講師:沼尾 正史 氏

(栃木県総合政策部 次長)

〈第2部 パネルディスカッション〉

内容:「地域資源と新技術を活用した

持続可能な街づくり」

コーディネーター:中津 正修 代表理事

パネラー:三橋 伸夫 氏

(とちぎボランティアNPOセンター

須藤揮一郎 氏

(栃木県立博物館 館長)

村上 龍也氏

(地域振興委員会前委員長)

オブザーバー:沼尾 正史氏

(栃木県総合政策部 次長)

〈第3部 全国経済同友会セミナー

準備状況報告〉

〈第4部 意見交換会〉

2 日目

〈第5部 親睦ゴルフ大会・視察研修〉

親睦ゴルフ:那須ゴルフ倶楽部

視察研修:石の美術館

那珂川町馬頭広重美術館

【小林筆頭代表理事 開会挨拶要旨】

サマーセミナーは会員の方々を対象に、毎 年7月に1泊2日で研修、または視察等の親 睦事業を行っています。今年は、この那須の 地でいつもと違った環境の中で熱い議論が交 わされ、また楽しい時間を過ごしていただけ たらと思います。

平成29年度 サマーセミナー 公益社団法人 栃木県経済同友会



さて、本日は第1部の講演会では栃木県総 合政策部次長の沼尾様に栃木県の地方創生 の取組みについて、ご講演をいただくことに なっております。本県では平成27年の10月に ぽ・ぽ・ら所長)「とちぎ創生15戦略」が策定され、現在、官 民を挙げて地方創生に取り組んでいるところ でございます。沼尾様には、15戦略の目指す 構想と、その実施状況を踏まえながら本県の 地方創生の取組みについて、ご講演をいただ きます。

> 第2部ではパネルディスカッションを実施 します。こちらは来年4月に宇都宮市で開催 される、第31回全国経済同友会セミナーの 本県担当分科会を想定いたしました。コー ディネーターに中津代表、パネリストには、 須藤栃木県立博物館館長、宇都宮大学の前 副学長である三橋所長にお越しいただきまし た。そして当会からは、村上地域振興委員会 前委員長が参加します。来年4月の全国経済 同友会セミナーにつながる熱い議論を期待し ています。

> この2日間を通して会員の皆さまには親睦 を図りながら情報を交換し、共通課題の検討 や連携の強化を図ることによって、同友会活 動がさらに活発化されることを願っておりま

【第1部 講演会】

演題:「栃木県の地方創生の取組について」

講師:沼尾 正史 氏

(栃木県総合政策部 次長)

栃木県総合政策部次長の沼尾でございます。 日頃から、栃木県経済同友会会員の皆さまに は、様々なご支援、ご協力、政策提言をいた だいておりますことをこの場を借りて熱くお 礼を申し上げます。

さて、地方創生は、日本創成会議が全国の 市町村の約半分が消滅するという調査結果を 公表し、日本全体が人口減少・少子高齢化問 題に危機感を持ち取組み始めたところです。

栃木県では平成27年10月にまち・ひと・し ごと創生地方戦略として「とちぎ創生15戦略」 を策定しました。本日は、15戦略の現状や頂 いた提言の進行状況等について説明を致しま す。今後、栃木県において地方創生が実現す ることによって元気な県になり、永続的な発 展につながるようにという気持ちで、理解が 深まり皆様の御協力を得ることが出来ればと 思います。

平成29年度 サマーセミナー 公益社団法人 栃木県経済同友会



~とちぎ創生15戦略について~

とちぎ創生15戦略は「人口ビジョン」と 「総合戦略」に分かれています。

人口ビジョンの中で、現在の合計特殊出生 率1.4で推移し、転出超過が続くと2060年に は人口が120万に減ってしまいます。その影 響として、働き手不足や、社会保障では1.1 人で高齢者を支えるという社会になってしま

施設や公共交通機関が廃止され持続的に生活 ができない状況になることが想定されます。

今後、将来の展望と目指す方向として、 2030年の合計特殊出生率を1.9まで上げ、そ れを確保しながら将来的には2040年には人口 置換水準を2.07に乗っていくことによって、 2060年で150万人を維持出来ると思います。 これを何とか実現しないと将来の元気な栃木 県に繋がらないので、様々な施策を行ってい く必要があるだろうということで「とちぎ創 生15戦略』を作りました。

次に、「総合戦略」の4つの基本目標につ いてご説明します。基本目標1は「仕事をつ くる」です。これは若い人たちが定住するた めには、仕事がないと定住できないというこ とです。そのために産業の集積や産業の振興、 また就労機会、女性や高齢者等々、障害者も 含めて就労を促進していくということです。 大きな成果指標として、県民所得や雇用の創 出を目標としています。計画自体は5カ年の 計画ですが、県民所得、雇用の創出について ほぼ目標の半分ぐらいを達成している等順調 です。成長産業としての農林業についても、 農産物の輸出増加、木材加工の増加等順調に 成長しているところです。

次に基本目標2「新しい人の流れをつくる」 です。県内には東京に近い地理的な優位性を 活用し、様々な企業がたくさんあり、就労状 況としては確保されていると思います。した がって、定着、企業誘致の推進、人の環流と いう部分で、移住者数自体は増えている状況 にあるものの、全体としては転出傾向で特に 東京圏に出た若者が帰ってこないという状況 です。

次に目標3「栃木で結婚、妊娠・出産、子 育ての希望をかなえる」です。今年の合計特 殊出生率は1.46で、目標の1.62にはやや遠い という状況になります。この対策の一環とし て結婚支援や妊娠・出産の支援や、子育て支 います。また、最近よく言われるのが、公共 援に取り組んでいます。まだ限られた中でやっ

ておりますので、地道にニーズを把握しなが らやっていくということが重要だと思います。

最後に基本目標 4 「時代に合った地域をつくり、栃木の安心な暮らしを守る」です。平成27年度の調査では、地域に住み続けたいと思う人は70パーセントを超えた水準で推移しています。暮らしにくいとは思っていないが、何もしないと公共施設が無くなり、公共交通機関が不便になる等、安心して暮らすことが出来ない部分が広がりつつありますので、今後どう取り組んで行くかが課題であります。



~栃木県の地方創生の取組み~

15戦略の推進にあたってはKPIの達成に 向けて数値目標の達成状況や取組の進捗状況 を適切に把握・検証したうえで、取組みの見 直しと改善を図る仕組みとしてPDCAを導 入しています。

まずは、栃木に仕事をつくるという部分で、 栃木はものづくり県でございますので、もの づくり産業の発展的支援として、航空機産業 を中心とした先端ものづくり産業への戦略的 な支援や、農業や観光関連産業との連携強化 による「フードバレーとちぎ」の推進に取り 組んでいます。また、新産業の創出について は、地域振興委員会からご提言をいただいた、 ヘルスケアや環境といった新しい産業の育成 にも、様々な工夫をしながら取り組んでいる 状況です。これらの取組みについて、より効 果的な手法等ございましたら、助言を頂きた いと考えていますので、よろしくお願い致し ます。 次に、地域の雇用を支える企業支援として、 経営力の向上、創業支援や事業承継に対する 支援に取り組んでいます。中でも創業につい ては、重要項目という認識です。こちらは、 産業政策委員会の提言で普通科高校での起業 家教育の強化についてご提案を頂いています。 こちらについては、今後どのような形にして いくのか検討していく必要があります。私は、 職業系の高校の校長経験がございまして、地 元への就職や人材育成といった部分について は地元企業の協力を得ていることは十分に認 識しております。こうした取組みを継続的に 行うことが大切であると思います。

次に、園芸生産の戦略的拡大です。こちらについては、地域振興委員会から産業としての農林業への脱皮ということで農業の大規模化や株式会社への参入推進、スマート農業化についてご提言を頂いています。法人化の推進では進展していませんが、ICTの活用では先進的に取り組んでいる方がいますので、今後さらに普及を進めることによって、農産物の輸出促進に繋がると思います。

続きまして、基本目標2のとちぎへの新しいひとの流れをつくるです。県内の高校・大学の魅力向上として、グローバル人材の育成、専門性を生かした高大連携の促進、キャリア教育の推進等々に取り組んでいます。また、地域等との連携による若者の地元定着の促進では、大学コンソーシアムが中心となり、大学・地域連携プロジェクトを進めているのが現状です。

次に、企業誘致の推進については、雇用の 創出という面で、非常に重要であり助成制度 を拡充させながら取り組んでいます。

次に、東京圏から地方への移住希望者に対する発信力の強化やブランド力の向上についての取組みです。若い女性が地元に戻るためには地元への就職を促すことが重要だと思います。その対策の一環として、県では就職アプリを作り、地元企業に関する情報の提供を

拡充しています。高校生や親御さんに地元企業の情報にたくさん触れてもらうことが、若者の地元定着に繋がるからです。まだ出来たばかりで改善点がありますが、内容の充実を図っていきたいと思います。

一方で、ブランド力向上については、魅力度ランキングで35位から46位に順位が下がってしまいました。ブランド力向上に向け、色々と仕掛けているところです。ブランド力の向上によって観光や林業や農産物が評価を受け、栃木は来ても良いし、住んでも良いし、遊んでも良いという魅力に満ちた県になることが必要で、そうすることが、若者の地元への就職増等に繋がるものと思います。また、社会問題委員会で提言いただいた県内就職者への奨学金の件になりますが、業種を外すのは制度上で難しい部分がありますが、現在検討している段階です。

次に、栃木への人材の還流では、有楽町にセンターを作り移住定住と併せて、仕事の部分を含めてワンストップの相談窓口を充実させています。利用者は多いのですが、移住は家族の問題等決めるべきことがたくさんある中で、約2,000名が帰ってきているという実績があります。また、県外大学で県と就職協定を締結したのが100校あり、県内に戻る意思を有している学生が1,000名程度いると言われています。こうした、きめ細やかな対応をしていくことが重要であると思われます。

~最後に~

地方創生を進める上であらゆる面で全体を グレードアップしていかないと、地元に就職 をしたり、住んでもらったりという形に結び つきません。そのためには、産官学金労言と 市町村を含めて合意形成を取りながら、また 新しいベクトルを示すことによって、最終的 には人口が維持出来て、経済的にも良い循環 が出来るという形が、地方創生の目指すべき 方向であると考えています。そのためには、

皆様からのご提言や情報の交換等連携を取り ながら行政の施策に繋げていければと思いま す。本日はありがとうございました。

【第2部 パネルディスカッション】

内容:「地域資源と新技術を活用した

持続可能な街づくり」

コーディネーター:中津 正修 代表理事 パネラー:三橋 伸夫 氏

> (とちぎボランティアNPOセンター ぽ・ぽ・ら所長)

須藤揮一郎 氏

(栃木県立博物館 館長)

村上 龍也 氏

(地域振興委員会前委員長)

オブザーバー: 沼尾 正史 氏 (栃木県総合政策部 次長)



(中津代表理事)

今回は『地域資源と新技術を活用した持続可能なまちづくり』という大きなテーマです。現在、世界では第4次産業革命の時代を迎え大きな転換点にあります。ビッグデータをバックボーンにし、AI、ICT等の非常に革新的な技術やデジタル技術が進化している状況です。これらの技術はすでに我々の仕事の中に入ってきています。これが一つ、大きな事象として捉えています。

二つ目は、インターネットです。これは、 我々が想像もしなかったネットワークという、 人類が初めて手にするパーソナルコミュニケー ションです。こういうことが実現可能になっ て、新しいコミュニティーの創造というのは、 地球レベルで構築されている。これも大きな 変化と捉えています。

先程の沼尾次長の講演の中にもあったように、地方の人口減少と同時に大都市圏へ人口がどんどん移動しています。そうした中、地方の活力を如何に維持していくか、各施策をどう現実のものにしていくかということが重要だと思います。

人口減少問題は非常に深刻な問題です。本 日は、地方都市を持続可能な都市とするため に、どのように取り組んでいくかをテーマと していきたいと思っております。

私は、これからは都市のキーワードが三つあると思っております。サスティナブルシティ・スマートシティー・コンパクトシティーの三つです。私共はこの三つをキーワードとして考えていきたいと思います。

人口減少時代を迎える中で、どのようなまちづくりを進めるかが現実の課題としてございます。パネリストの方々に、それぞれ伺いたいと思います。



(三橋氏)

これからのまちづくりは、人口減少を前提として行っていくことです。人口減少・超高齢社会という、人口の年齢構成も合わせて考える必要があります。今後、生産年齢1.1人で、65歳以上の人口を支えるという事が現実のものになってきます。これをどう乗り切っていくか、つまりサスティナブルということで、三つの視点が重要です。



- ・一つは高齢者にとって暮らしやすい街です。 それは、移動や日々の生活、介護医療とか 福祉等々がユニバーサルデザインで構成さ れているということです。そのための技術 開発は進んでいく一方で、今後の課題は 「コスト」です。誰が経済的な面で補完し ていくかが課題です。
- ・二つ目は、人と人との繋がりが、しっかりしたコミュニティーによって構成される都市です。高齢化社会が進展し、社会には元気なお年寄りばかりではなく、認知症や寝たきり老人といった方々もいます。また、孤独死等は大きな問題になっています。全国の孤独死等のお年寄りの数を推定すると、大体、年3万人いると言われます。交通事故も5千人を切るような時代になる中で、それだけの方が人知れず亡くなっている。これをいかに防ぐか。行政だけでは対応しきれない。そういうことも、一つ挙げられるということだと思います。

関連して、空き家問題があります。栃木県内でも約16パーセントあり、今後20~30年先には、ますます増加していくことが予測されます。これをどうやって適切に管理していくかが課題です。これからの建物は、様々な形で転用可能となるいわゆる長寿命の建物に置き換えていくということが求められます。公共施設については、昨年度中に公共施設等の総合管理計画が作られました。そこでは、これからの公共施設の新設や維持管理に掛ける経費を、今後30年間は

政的にもたないというシミュレーションが 出ています。人口減少や高齢化という実情 が、必然的に人間の暮らしを支える住宅や 公共施設を社会として支えきれないという ことです。建て替えるにしても、そういっ たことに見合う形で、壊していくものを見 つけていかなければならないほど、非常に 合意形成が難しいところであり、今後は自 治体が中心になってやらなければならない し、地域も協力していかないといけないと いうことになります。

• 最後は防災対策を強固なものとする防災都 市づくりです。昨日、一昨日、ご承知のよ うに、九州で非常に大きな災害が起こりま した。昨年も熊本で地震がありまして。大 きく言うと、地球温暖化で、気象が非常に 激甚化しています。つまり、今までになかっ たような時間雨量100ミリを超える豪雨が 毎年のように発生しているわけです。今後 は毎年どこかでそういったことが起こる可 能性があります。地震について言えば、日 本列島全体が、いわゆる活動期に入ったら しいということです。その一番の典型例が 阪神淡路大震災から始まる各地の直下型の 地震や火山の噴火です。かつて、東日本大 震災並みの貞観地震による津波の数年後に 富士山が大噴火をしているということがあ ります。火山の噴火で、ほんの数ミリ火山 灰が都市部に積もるだけでも、日常生活が ほぼ成り立たなくなるという予測もありま す。この問題にどのように対処していくか、 恐らく、誰も答えることが、出来ないと思 います。現時点で対応出来るのは、地域と してどう防災対策をより強固なものにして いくかということです。以上、中津さんの ご提言を受けて、私としては三つ取り上げ たいと思っております。

(須藤氏)

少なくとも2割から3割削減しないと、財 今のIT社会というか、あるいはSNSの時 代を見ると、自分は時代遅れだなというのを 最近痛感しています。こういうものを自由に 使いこなせる若い人たちを、もっと地域の中 に全面的に取り入れて頂き、うまく連携でき る関係が構築できたら良いと思います。



さて、地域の課題ということですが、今、 地域活性化とか、地方創生とか言われていま すが、中心市街地の活性化が一つのポイント だと思います。人口問題の他、生活パターン の変化、たとえば車社会によって昔は毎日買 い物に行っていたのが、1週間に1、2回、 車で郊外のスーパーで済ましてしまうという ことによって、中心市街地の景気が悪くなる という状況です。あとはレクリエーション自 体が多様化していますので、中心地が商店街 の他、そういう意味ではレクリエーション的 な機能としても、魅力が低下しています。

私たちの小さい頃は、デパートに行くこと は、それだけで楽しみでしたが、今はそうで はなくなってきていると思います。あるいは 歴史を踏まえた、寺社、社寺の門前町的な賑 わい、そういったものも失われていっている のが課題だろうと思います。

そういった賑わいの創生のためにどうする かということになると、当然、中心拠点地域 への人口集中ということが必要になると思い ます。そういう意味で、宇都宮にしても、中 心部に人が戻ってきつつあるというのは実感 しています。大通りからちょっと離れた所に 先ほど中津さんから話がありましたように、 は、ミニ開発的な住宅がたくさん建ちはじめ

ているように、宇都宮中心部には人が戻って 何に賑わいを創生するかということですが、 そのために中心商店街をどうするかというこ とを考えた場合に、昔ながらの買い物文化が ないわけですから、当然、非日常性の創出と いうのをやはり考えていく必要があると思っ ています。

もう一つ、栃木県は車社会です。これを前 提にするのか、車社会からの脱却を目指すの かというのは、本当に悩ましいところです。 ただやはり、車社会というのは、人を点から 点に運んでしまうので、線とか面的なにぎわ いを創出するというのは、非常に困難だと思 います。ここ那須地域も観光地としては優れ ていますが、点ですよね。車で東京から、拠 点と結ばれてしまっているのです。例えば、 旧軽井沢とか、鎌倉とか、そういったような、 歩いて回る賑わいがないというのが、ちょっ と残念です。そういう意味では、公共交通を 中心とした歩くまちづくりが必要だろうと思 います。例えば、御朱印帳は、歩きますから ツールの一つとして面白いと思います。御朱 印帳を持って神社仏閣をめぐりながら、途中 で伝統工芸のお店とか土産店にも寄って楽し みながら歩くことで、地域に賑わいを創出で きると思います。国営常陸海浜公園のように 四季折々の花をメインにするのも良いですね。 それらがSNSを通じて画像で拡散されるこ とで、人々が集まることに繋がります。

(中津代表理事)

ありがとうございます。今、須藤館長のお 話を聞いて私が感じたのは、最近、サードプ レイスという言葉があります。人間は、ファー ストプレイス、生活する場所、セカンドプレ イスは働く場所、そしてサードプレイスは、 非常に大事だと言われています。例えば、日 本で言えば居酒屋とか、昔の銭湯がそういう 場所になります。海外では、ドイツのビアガー デン、アメリカのロードサイドの雑貨店、こ

ういう所に新しいコミュニティーが生まれて きつつあるという気がします。その中で、如 いるということで、私は気になるところがあ ります。今、須藤館長がおっしゃった、昔デ パートに行くことが楽しみだったみたいな、 情報がある所に人が集まったっていうことで すよね。今の近代というのは、そういう意味 ではちょっと消滅している寂しさみたいのが あります。それでは、昨年、地域振興委員会 で「トチギの未来夢計画」という提言書を作 成した村上委員長にこの思いの部分を語って もらいたいと思います。

(村上氏)

未来夢計画を作った立場で言うと、『地域 資源と新技術を活用した持続可能なまちづく り』というテーマで話を進めていく中で、ポ イントが三つありました。外貨を稼ぐ、内部 循環型、取捨選択をすることです。



一つ目の外貨を稼ぐは、県外からお金を引っ 張って来ていかにお金を稼ぐかということで す。これは、お金だけじゃなくて、人、技術、 進出企業の伝統、文化を含めどんどん栃木の 中に入れていくということです。

次に内部循環型というのは、外から入って きたヒト・モノ・カネ・情報を県内で循環す るような経済社会、地域経済社会を作ってい くべきだという意味です。

最後に取捨選択というのは、未来夢計画で も、なかなか表現できなかったところです。 取捨選択というのは、それを選ばなくちゃな らない。つまり、住民の多数の考えがある中 で、栃木としてどうあるべきかという意見を

少し織り込まなければならないという気がします。そうしたことから、今回のテーマについて経済界としては、外貨を稼ぐ、内部循環型社会、取捨選択されたというところを、発信していきたいなと思います。

(中津代表理事)

それぞれお話が出ましたが、人口減少は川の流れが減っていくイメージに近いと思います。昔、子どものときに水遊びをして、泳いだ川が、今行ってみると、膝ぐらいまでしか水がないとかです。様々な理由がありますが、結果として減少している。これをどう、うまくコントロールして、その水をうまく活用するか。人口減少と社会構造というのは、そやすということは、非常に難しいことです。で、今から、今われわれが栃木県という立場の中で、今すぐ人口を増やすということは、国家的な戦略にもつながる難しい問題もあると思います。

それでは今後、地域資源、または新しい技術をうまく活用しながら、どのようにまちづくりに取り組んでいくのかについて話を進めたいと思います。先ほどの沼尾次長の講演の中で、15戦略の中で三つの話が出ました。一つは、安定した仕事を作ること、二つ目は、栃木の新しい人の流れを作り込んでいくか、三つ目は、栃木県内で結婚をして、子どもを産んで育てる。こういった部分について、おを産んで育てる。こういった部分について、お話を頂きたいと思います。最初に沼尾次長、その辺のところを、県の考えとして、ちょっとお話しいただければと思います。

(沼尾氏)

私が子供の頃は、高度経済成長期ということもあって周囲に活力がありました。現在は、人口減少や社会保障費の負担増等将来に対し不安を抱えています。そうした中、地域に住む人々が将来に対しどのような地域づくりをしていくかについて真剣に考えることが重要ではないかと考えます。



(中津代表理事)

人口減少社会を迎える中で、まちづくりが、 人口を増やせるような街をつくるべきなのか、 または人口減少を受け入れながら、新たなパ ラダイムというものを形成していくべきなの か。やっぱりこの判断というのも重要なのか なという気もします。この辺について、御意 見のある方。いらっしゃいますか。

(須藤氏)

全体として人口が減るというのは、全部平均すればそうでしょうけども。やっぱりコンパクトシティー化によって、ある所に集中させるという選択肢は当然必要だと思います。そうしないと、投資効率も落ちてしまいます。行政サービスなんか、効率的に使うために、都会あるいは中心部に人を集めるということをある程度、政策的にやっていくしかないでしょう。農業などもICT等を活用すれば、中心部に住んで、郊外に働きに行くということはありだと思います。そういうことも含めて考えていく必要があると思います。

(三橋氏)

日本にとって、どのくらいの人口が適正であるかという議論があると思います。やっぱり参考にすべきは、一つは、明治に開国する前の人口がどれくらいだったかということです。当時は約3,200~3,300万人だったと言われています。現在の、多分3分の1以下です。そこから、130年程度で急激に増えてきたのが実状です。

問題は、どの程度が適正かではなく、この

先、どう減らすという、減らし方が問題だと なくてはと思います。やっぱり少子化対策と 思います。つまり、急激な人口減少は、社会 に対して様々なひずみが生じることが予想さ れます。地方の創生総合戦略というのは、人 口減少社会を如何にソフトランディングする かというのをみんなで決めましたということ だと思います。ですから、栃木県の将来的な 適正人口が120万なのか、160万なのか、それ は誰にも分からないということだと思います。

人口約3,000万人程度の鎖国状態の中、水 や食料という資源のやりとりがほとんどなかっ た状態で、自給できたわけです。だから、生 産力や生活力も上がりました。日本が完全に 物のやりとりをしないで、生きていこうとし たら、3,000万ぐらいが適当でないかと思い ます。ただ、そういうわけにもいかないので、 やっぱり適正人口というのは、将来的にはソ フトランディングする中で、おのずと決まっ てきますが、それが1億になるか6,000万人 になるかは分からないのが実状です。

(中津代表理事)

地球規模で見ると、南半球では人口が増え ています。むしろ、今まで世界の経済とか文 化を引っ張ってきた北半球が人口減少してい て、これから発展が見込まれるインドなどが、 世界の人口をこれから引っ張ってくことにな ると思います。人口問題はそういうレベルで 考えていかなきゃならない部分もあるという 気もします。減少している中で、新しい都市 をつくる、これが再生の生きる道であるとい う考え方と、人を増やしていくという二つを 捉えてみたときに、どう捉えるべきなのかな ということを感じています。

(須藤氏)

今まで1億2,000万人くらいで、何とかやっ て来たので、これをやはり、最低限、維持を すべきだと思います。やっぱり人口が減って 栄えた国はないというふうに思います。それ を前提として、今までやって来ましたのでこ の数字を維持できるように政策を取っていか 区画を今でも使っています。そういった区画

いうものは、思い切ったことをやらないとい けないのかなと思います。

(中津代表理事)

現在、議論しているテーマが、地域資源と 新しい技術を活用しながら、まちづくりにど う取り組むかというテーマですが、世界で一 番住みたい街と言われているのがアメリカに あるポートランドです。人口約63万人で鹿児 島と同程度です。このポートランドでは、ま ず徒歩20分圏内にコミュニティーをデザイン しています。これは40年かけてつくられたコ ンパクトシティーです。それから、ネイルアー トやクリエーティブビジネスを推進する等地 域活力を活性化させています。

ポートランドのまちづくりは、サイズを特 定してこれを維持しながら、そこに新しい文 化を根付かせる手法であり、この成功事例を 世界に対して輸出しています。



(三橋氏)

|私2012年にオレゴン州のポートランドに行 きました。比較的高速の鉄道、LRTやバス があり、車がなくても十分生活できるという ふうに感じましたね。世界一住みやすいとい うのは、そうかなという気はしますね。1週 間しか滞在しませんでしたが、住みやすい町 という気は致しました。

アメリカの街は、地形を気にせず、碁盤の 目のように町を区切り、そこを開発するとい う手法です。150年ぐらい前に作られた道路 をきちんと作って、交通機関、住宅地、商業 地等の整備というゾーニングを計画的に進め ていったところが、非常に住みやすい街とい う基盤になっていると思いました。



(中津代表理事)

ポートランドで気になったのは、1階は商業施設、2階から6階まではオフィスで、人の居住空間は、その上に作られていたという建物が多いということです。須藤館長、例えば栃木県にそういうものを導入するということは如何でしょうか。

(須藤氏)

その地域に人が住まないというのが一番大きな問題です。やっぱり、1階に非日常の商業スペースがあって、2階から6階までにオフィスがあって、その上に住宅という誘導は面白いと思います。そこに高齢者居住空間の施設を絡ませることによって、様々なサービスができてくると思います。こういうことは、真剣に考えていきたいと思います。

(中津代表理事)

村上さん、そういう街についてどのように思いますか。

(村上氏)

夢がありますよね。子どもたちも夢がないと言いつつ、実は、大人たちの夢が無くなっているという話に、夢が無くなっているのではないかという気もします。その夢のような話をこれからたくさんしていったほうがいいと思いますね。

(中津代表理事)

その夢をどうすれば実現できるかということを、われわれは提言していかなくてはならないと思います。夢の話が夢で終わるのではなく、何らかの形にしたらいいと思います。そのために、産官学を密接に繋げて、何とか形にするという努力をしていく必要があると思います。そういうところを、やはり同友会としても議論していかなくてはいけないと私は思います。須藤館長、行政の経験というお立場からどうでしょう?

(須藤氏)

やはり、要はいろんな施策を進める上で、 どこがリスクテイクをするかが大きな問題だ と思います。行政だけでなく経済界の方々か ら提言も頂きながら、新しい方向に流れを変 えていくということが必要だと思います。三 橋先生お願い致します。

(三橋氏)

総合設計制度というものがあって、例えば ビルを建てるとき、公開空地という24時間出 入り可能な公園のような公開空地を設置する と、容積率、斜線制限が緩和され大きいビル が作れます。こういった仕組みは既にありま すから、栃木県や宇都宮市として取り組む事 は可能だと思います。



(中津代表理事)

まちづくりを進めていく上で、調整区域の 開発は今もできません。開発を進める場合で も500平米以上の商業施設の店舗面積はでき ません。様々な壁がありますが、その壁を越 えることが非常に大変です。宇都宮駅から、数キロの所で、広大な土地が調整区域となっているのは非常に珍しい地域だと思います。やはり、こういうことでは、人口を増やすということは難しいでしょう。となると、既存の建物を壊して、新しくリニューアルするしかないのかなと思います。そうすると、あるサイズの中で、いいコミュニティーをつくっていくということが重要になると考えます。

これからの議論は、まちづくりを進めていくうえで、行政は大きな役割を担っていると思います。本日は、オブザーバーに栃木県総合政策部の沼尾次長様にご登壇いただいているので、県に要望を出してみようと思います。皆様いかがでしょうか。

(三橋氏)

地方創生の県の総合戦略は、全体的に網羅している内容となっていますが、そこに加えさせていただきたいことを申し上げると、文化やアートですね。栃木県の人たちは、自分たちの心の中に愛着があっても、それを外に表現するのがあまり得意ではない傾向があります。それが地域の活力に影響を及ぼすようだと、少し改めていくべきじゃないかと思います。

例えば、中世の宇都宮氏は百人一首の生みの親であり、本来なら、宇都宮がその百人一首の聖地になってもいいはずです。こういうことは小学校とか中学校とか、教育レベルから栃木県っていうのは、こういう偉人がいるとか、こういう歴史や文化があるということを踏まえつつ、現在県内ではこういう企業があって、こんな物を造ってるといったような、付加価値をつけることが必要です。つまり地域というのは、歴史の積み重ねがあって現在があるいうことを認識する必要があります。

ものづくりや農産物等で良い物を作っていますが、栃木県で作っているっていうところが抜け落ちてしまっているイメージがあります。つまり、これは栃木でしかできないとい

うことが、他県の人たちに受け止められていないのではないかと。これでは、先ほど村上さんの述べた、県外の外貨獲得というところには繋がりませんし、文化の醸成に繋がるストーリーを作ることに結びつかないと思います。今後は、文化行政という面について、フォーカスして頂きたいと思います。



(中津代表理事)

ありがとうございました。村上さん、提言 的な意味合い合いも含めて、いかがですか。 (村上氏)

未来夢計画を作成中にも直面しましたが、 もっと何かに特化することが良いだろうなと 思っています。あるいは、全く解釈を変えちゃっ て、県とか行政さんというのは、クリエイター であり、プレーヤーは、経済界であるという 立場で動く。それが結果的に、動き出して作っ ていくという作業に繋がっていくものと思い ます。中津さんが言われるように、じっとし ている猶予はないというスピード感で進めて いくことが重要だと思います。

(中津代表理事)

ありがとうございました。そろそろ締めさ せていただきたいと思います。

私が都市というものを論じるとき、都市には5つのエレメントがあると思っています。1つはパス、要するに通り道。いろんな意味の通り道があります。2番目は、ディストリクト。要するに地域の領域。都市の領域というか、サイズみたいなもの。3番目は、ランドマークが必要だと。これはやはり、目印と

なる象徴的な物の必要性。4番目は、エッジ。 と。結節点。例えば、字都宮などを見ると、 結節点がありません。

実は、私、6番目というのを勝手に作りま した。今日のお話を総合すると、例えば経済 界、それから産官学連携ということもよく言 われ、コミュニティーの創造というのがすご く大事だなという感じを受けました。ですか ら、都市のエレメントは5つじゃなくて、6 つ、ひょっとしたら今のITの進化というも のを考えると7つ目もあるのかも分からない です。

最後に、日本は人口減少・少子高齢化とい うとても大きな課題に直面しています。我々 は、それ乗り切らなきゃならないという使命 を担っているとあらためて認識致しました。 このことを是非皆さん突き詰めた議論を進め ていきながら、栃木県経済同友会としての、 はっきりとした所見を出していきたいという ふうに考えておりますので、今後ともよろし くお願い致します。

本日はありがとうございました。



◆視察研修

サマーセミナー2日目の視察は、来年4月 に開催される第31回全国経済同友会セミナー 栃木大会のエクスカーション宿泊コースであ る「那須の自然と芸術を巡る旅(建築家・隈 ◆親睦ゴルフ大会 研吾氏の建築巡り)」に盛り込まれている内 容を基本に実施した。

最初に訪れた那須芦野・石の美術館 STONE エッジは刺激的で鋭い感覚。5番目はノード PLAZAは、隈研吾氏の設計で、芦野石の古 い石蔵と新しい建物、計6棟からなる総石造 りの美術館で、石と水と光によって創りださ れた落ち着いた空間であった。



那珂川町馬頭広重美術館は、隈氏の代表作 であり、自然豊かな那珂川町の景観に溶け込 むよう、ゆったりとした平屋建てに切妻の大 屋根を採用。美術館全体は、地元産の八溝杉 による格子に包まれ、時間とともに移りゆく 光によって様々な表情をみせていた。内装に も地元の材を使い、壁は鳥山和紙、床は芦野 石でできており、隈氏のコンセプトを充分に 伝わるものであった。



また、昼食では大八寿司で、那珂川町の温 泉とらふぐを食し、コリコリとした歯ごたえ と、何とも言えない甘さは、天然のフグに劣 らず美味しく堪能できた。

サマーセミナー2日目の親睦ゴルフ大会は 那須町の那須ゴルフ倶楽部にて開催された。

集

当日は天候にも恵まれ、強い日差しの中での ゴルフとなった。21名が参加し、競技終了後 には表彰式並びに懇親パーティーが行われた。 見事優勝に輝いた村田氏には、藤井理事から 優勝トロフィーと優勝賞品が贈呈された。 (競技結果)

優 勝:村田 和也氏

(東日本電信電話㈱)

準優勝:平野 一昭 氏

(西部生コン(株))

3 位:大澤 光司氏

(㈱メディカルグリーン)



また、今大会でも参加会員企業様より多数 の協賛品をいただき参加者全員に参加賞のほ か特別賞をお渡しすることができた。

那須岳を真近に見ながらの広いコースで英 気を養え、また会員相互の一層の懇親が図れ た充実した一日となった。



トーク&コンサート ~ふるさと"とちぎ"から世界へ~

日 時:平成29年9月20日(水)

場 所:栃木県総合文化センター サブホール

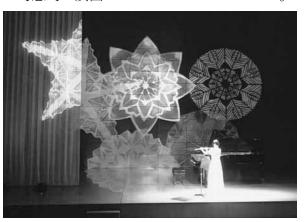
参加者:282名(一般含む)



トーク&コンサートは、多くの県民が参加できるようにするため、公益事業として広く一般に開放した当会として初めての事業である。本県出身のアーティストをお招きし、ふるさと"とちぎ"に対する熱い想いを講演及び演奏で表現して頂いた。また、会員同士の親睦を図るため、講演前に会員とその家族対象の立食パーティーを開催した。

【オープニングアクト】

フルート奏者の高橋詩織さんに、「Malcom Arnold Fantasy for Flute」を含む 4 曲を演奏して頂いた。高橋さん自作の切り絵を用いた幻想的な演出のオープニングアクトだった。



【小林筆頭代表理事の挨拶要旨】

小林筆頭代表理事から開会の挨拶があり、「今回は約300名という、多くの方々にお越しいただいていますが、特に、これからの栃木県の発展を支えてくださる中高生の皆様に多数御参加いただくことができ、大変嬉しく思っております。素敵なお話と演奏を聴きながら、皆様とふるさと"とちぎ"で、心豊かに暮らせる幸せを改めて実感して参りたいと思っています。」と述べられた。

【須藤梨菜ピアノリサイタル】

幼少の頃から国内外のコンクールにおいて優秀な成績を収め、現在はヨーロッパを中心にコンサート活動をしていらっしゃる、ピアニストの須藤梨菜さんによるリサイタルを実施した。6歳の頃、初めてプロのオーケストラと共演した思い出の曲「モーツァルト」きらきら星変奏曲KV265」から始まり、現在在住しているポーランドが誇る音楽家ショパンの曲を含む全7曲を演奏して頂いた。



【中津代表理事による花束贈呈】

演奏終了後、参加者を代表して中津代表理事から須藤さんに、感謝の花束が贈呈された。 会場から称賛と感謝の拍手が送られると、ア ンコール曲を数曲ご披露頂いた。

本事業の結果を踏まえ、次年度は30周年記 念コンサートを企画・運営する予定。

テーマ「今こそ発信とちぎの力」 モーニングセミナー 一私しの経営一



孟氏 講師:深井

㈱深井製作所 代表取締役社長

1945年(昭和20年)栃木県足利市出身

座 右 の 銘:人並みの努力では 人並み以上には なれない

好きな言葉:愛ある所 常に楽園あり (ツルゲーネフ)

味:犬との散歩 趣

日 時:平成29年7月12日(水)

 $8:00\sim9:00$

会 場:宇都宮グランドホテル 扇の間

参加者:63名

【はじめに】

80年を迎えます。私は今72歳ですが、父の他 界を機に36歳の頃から社長を務めております。

【深井製作所の歴史】

明治41年、軍艦1隻の製造費が何百万円と いう巨額なお金を要した当時、何百分の一の 費用で飛行機が出来ると山本五十六氏が当時 の海軍将校に対して進言したそうです。昭和 10年、山本氏がその立場になった時に飛行機 を作ろうということになり、中島知久平さん に話がありました。父の叔父が経営していた 蒲田の鉄工所に中島飛行機から話があり、父 が叔父から「金型をやらんかね」と誘われて、 昭和13年に会社を設立しました。当時、北関 東に金型屋は1社もなかったそうです。

終戦後、父は主に鍋、窯、フライパン等を 作っていましたが、富士重工がラビットスクー ター(スクータータイプのオートバイ)の製 造を決定した際、トライアルプレスが偶然合っ たことから依頼を受け、金型と部品を作った ことが、プレス部品製造のスタートであると 聞いています。

【衣食住「移」~未来を想像する~】

「衣食住"移"」、最後の"い"は移動の移 です。我々が携わっている移動手段は30年後 にはどのように変化するか、エネルギーはど うなるのか等を常に考えています。幼少期に 絵本で見たビルの間を走る高速道路や新幹線 深井製作所は昭和13年10月1日創業、来年が現実になっていますので、常に未来を想像 し、今は車自体の重さをいかに軽くするかと いうことに努めています。

【異素材の接合技術の開発経緯】

今、スポット溶接やCO2溶接事業をして おり、部品同士を繋いでいます。将来は接合 技術、アルミと樹脂、アルミと他の鉄板と樹 脂とか、炭素繊維や、あるいはマグネシウム 等をどう接合させていくかが求められている と思います。研究し始めて既に3年が経ちま すが、これも日頃から社内で「数十年後も残っ ている会社を作るには」というテーマで協議 しているからです。

今春から導入した衝突試験機を使い、時速 48km~60km程の衝撃を与え、モニターを通し て壊れ方(どの程度の衝撃がどこにどのよう に加わるか)を確認しています。衝突前に部 品に印を付け、印が以前と比べてどのように 変形したかをミリ単位で確認し、理想的な壊 れ方を実現するため強度はどのくらい必要か、 素材をどのように変えるか等を研究しています。 その過程で異素材の接合技術を開発します。

【管理体制の基礎づくり】

私が社長に就任した時は、中小企業の同族 経営の域を脱しない状態でしたが、自分と考 え方の近い常務と部長と3人で食事をしなが ら、生産計画を立てる際のプロセスはどうか、 製造技術のみで、製作・開発技術がないので、 製作・開発出来る人材を育てる必要がある、 等と日々話し合いました。ある程度方向性が 見えてきた時、私は40歳を迎えていました。 45歳の頃、現在の管理体制の基礎が出来上が りましたが、技術屋の育成には約15年かかり ました。

【バイブルは『人を動かす』】

配置転換や昇格の際は、必ず社員と面接する時間を設けて、上意下達で人事通知を押し付けるのではなく、意見を必ず聞くよう心がけています。私のバイブル『人を動かす』(デール・カーネギー著)を読んでいて、人を使ってはいけない、人にいかに動いてもらうかというようなところだと解釈したからです。人の強みを引き出して、仕事にどのように結びつけるかが、当社の経営の柱の一つになっております。

【社員の目線で職場環境を改良】

社員1人1人の存在価値を認め、高めながら、楽しく仕事ができる職場づくりを目指しています。当社の現場にはエアコンがありませんが、空気や風の通る道をつくっているので、外気温と工場の中の温度が3度から5度違います。例えば、屋根からの熱風対策として、㈱板通様にお願いして屋根を全て温度が上がらない塗料に変えました。常に働く社員の目線で、工場の環境をどのように改良するか考えています。

【足利流「5S」】

足利市内の産業界を始め行政機関、学校等と連携し「足利5S学校」を設立し、先日まで教頭を務めておりました。足利流5Sは、整理、清掃、整頓、清潔、しつけ、です。清掃が何故2番目かと言いますと、先に整頓してしまうと、清掃する際に片づける必要があるからです。この順番で行動すれば清潔さが保たれ、環境を維持することでしつけが保たれます。

【参考にしているのはトヨタ式の生産方式】

豊田鉄工㈱と共同でアメリカに会社を設立 しました。社員達は企業文化の違いに戸惑っ ていましたが、段々とレベルが上がってきま した。トヨタ式生産方式は私の考え方と似て るんですよ。製造費の中で間接材料費、協力 工場の加工費、開発部品費、研究費、金型費 用、事務費用等を各々何%に抑えるか、抑え れば利益はどの位かを具体的に算出すること で、攻めの経営が出来ます。トヨタ式の生産 方式も同様に、入り込んでいる点が良いと思 います。今年の2月、社員の1人に「社長、 工場の溶接のラインの中に4台あるフォーク リフトを来年度中に、0にしましょう。」と 言われました。品物を置くラックの下にキャ スターをつければ、自分で移動させられるの で不要だと言うのです。フォークリフトを動 かす人員として要していた8名が浮き、工場 内の排気ガスがなくなります。トヨタ式の生 産方式、考え方は社員にも定着しています。

【会社の利益計画について】

売上利益比率は現在約5%ですが、6.5~7%が目標で、利益の3億を研究開発費に回したいと思っています。これまでの利益で3億費消すれば、利益率は3.8%程度になってしまうので、利益率を保つため6.5~7%を目指しています。利益は人材育成に使います。現在も女性が活躍できる社内体制構築を目標とし、コンサルタントに来て頂いています。

【むすびに】

全自動車がEV車になれば、エンジン、マフラー、ガソリンタンク等が不要になり、産業構造が大きく変わります。現在、日本ではEV車は少ないですが、15年後には多分、全体の15%程度がEVや他のエネルギーに、25年経てば水素に変化するでしょう。業界の未来を想像し、人材育成方法を考えることが、私の経営です。来春から始まる中期計画では、中小ではなく中堅企業であり続けるためにはどうしたら良いか、利益率の課題も含め考え、変革し、次世代に移していきたいと思っています。

-ニングセミナー テーマ「経済講演」 ・ロボットは、「日本のモノづくり」に夢を与えるか?-



講師:御子柴史郎 氏

野村證券株式会社 法人事業支援部 上級コンサルタント

1998年:野村證券入社

企画調査部にて、「ディスプレイ」担当アナリスト

2002年:米国 Stanford University(フーバー研究所)に客

員研究員として派遣

2004年:野村證券NYにて、「半導体・半導体製造装置」担

当アナリスト

2006年:野村證券エクイティー・リサーチ部にて、「電子材

料」担当アナリスト

2009年:同、「民生用エレクトロニクス」担当アナリスト

2014年: NR&Aにて、「製造業(電気、自動車、機械、化 学など)」担当アナリスト

2017年:野村證券法人支援部にて、未上場企業の成長支援を行う

日 時:平成29年9月13日(水)

 $8:00\sim9:30$

会 場:宇都宮グランドホテル 扇の間

参加者:65名

【講演要旨】

証券会社のアナリストなりの解釈で「ロボッ トは日本のものづくりに夢を与えるのかどう か」お話します。

【ロボット産業の可能性】

まで産業用途だったロボットが人と共生する 時代がやってきて、日本および世界の製造業 を支える産業になる可能性があるということ です。

ロボットを取り巻く観点で一番重要だと私 が思うのは、他にハードウェアの成長分野は 何かあるかということです。私はものづくりで 今後伸びるものは、ほとんど、もしくは全く ないかもしれないと思っています。ただ、私は 電気自動車とロボットは例外だと思っていま す。特にロボットは成長率という観点で非常 に大きなポテンシャルがあると考えています。

ロボットの定義は様々です。介護、医療の 現場でサポートをする、あるいは警備や介護 等を行うロボット。自動走行システムは車の ロボット化とも言えますし、サイバーダイビ

ングで有名な、身に着けて、高齢者の方でも 簡単に持て、体をサポート出来るといったも のもロボットの一種です。ロボットが身の回 りにあふれ、人と共生する様々なタイプが出 現し、ロボットの新たな時代の幕が開けると 思います。

私は、ロボットの産業規模は約20兆円と試 算しています。世界の人口は約70億人、約20 **億世帯です。富裕層と言われている約1億世** 帯が約20万円のロボットを購入すると20兆円 メッセージは三つあります。一つ目は、今になります。20兆円の産業というと、例えば 半導体があります。半導体そのもの、半導体 製造装置、半導体材料、全部含めてですので、 それなりの規模です。ロボットは一家に1台 で計算しましたが、1人1台になれば80~100 兆円といった産業規模になり得るのではない かと考えています。世界一大きな産業が自動 車産業といわれていますが、車自体、ガソリ ンスタンド、整備、ディーラー、保険等を全 部含めて、200兆円の規模です。ロボットは 自動車産業の次に大きな産業になると考えて います。

【日本のものづくりの復権のチャンス】

二つ目のメッセージは、ロボットは日本の ものづくりの復権の最後のチャンスだという ことです。液晶テレビの日本企業のマーケッ トシェアは3%程度、スマートフォンにおい て日本企業中トップのソニーでさえ、世界シェアはわずか1.5%です。自動車産業においても、環境が全く変わってきています。中国の電気自動車は質・値段共に日本製より低いですが、十分だという人が多くいます。

その中で、ロボットは日本メーカーの出番 だと仮説を立てています。理由は二つありま す。一つは、ロボットはアナログ技術あるい はメカトロ技術(要素技術)の総合的な塊で あるためです。例えば、ロボットの表情を形 成するには、空圧ポンプを入れて、制御コン トローラーを入れて、表面をベータやシード にする等の複合技術が必要です。体は動きま すが、関節を動かすのであれば減速機や軸受 けやベアリングが必要です。アナログ、メカ トロ技術は、日本に5割程度あります。世界 で一番大きな製造業と言われているサムスン 電子が強い分野はデジタル製品であり、こう した技術を一つも持っていないので、サムス ン電子ではロボットはできないのです。デジ タル化の中で少々脇道にそれてしまっていた 日本のアナログ技術はロボット産業において 非常に重要です。

もう一つの理由は、バリューチェーンが変形するからです。ものづくりは一般的にサプライチェーンが川上から川下に流れるといわれています。つまり、素材や部品があり、それを組み立てて完成品にして販売するということです。ただロボットは、一番の川上に消費者が来ます。彼らがパーツやアプリやサービス等のニーズを求めて初めて、ものづくマンド・プル型の製品と言ったり、フルカスタマイゼーション、あるいはマスカスタマイゼーションの製品と言ったりします。

10人いたら10人の求めるものが違うのがロボットの世界で、それを供給しなければいけないのが、ロボット産業の最大の特徴になります。サムスン電子やギャラクシーは大量に作らせるとすごいのですが、1台ずつ異なる製品を正確に供給して、場合によっては修正してといったサービスとものづくりを一体化

するようなことは出来ず、やろうともしないと思います。日本は中小企業が300万社あり、裾野が非常に広いため可能です。また、日本は各国に比べてサービス、メンテナンスに一番、人を多く投入しているため、フィードバックやカスタマーサポートの仕組みが圧倒的に優れています。それがないと、ロボットのフルカスタマイゼーションは成立しないということで、日本の企業はチャンスがあり、逆にいうと、海外企業にはそれがないと仮説を立ています。



【ロボット産業の事業モデルと今後の影響】

少し具体的に、どのような事業モデルが注目されるのか、更にはロボットの未来を考えた時に、私たちの生活や労働や考え方に、どんな影響を与えるのかお話しします。

ロボット1台当たり200~300個のボールベアリング素材を使用します。関節部分に必要で、指だけでも50個使用されると言われています。ボールベアリングは、日本企業が圧倒的なシェアを持っています。産業の米といわれており、韓国や中国メーカーは、寡占化を目指していますが実現できません。ボールベアリングの生産プロセスにはアナログの部分が多くあり、要は属人的な技術になっています。

ただし、ボールベアリングの部品の小さな 玉は日本企業3社寡占です。ロボットを造り たければ、ここがボトルネックになるのです。 例えば、ソフトバンクの孫さんは、ロボット を1人1台持ってもらうと通信料が入ってき ますし、場合によっては介護サービスやセキュ リティーのアプリケーション等の使用料も入っ てきますので、ロボットを作りたいと思いま す。ところがこの玉がないため、量産出来ないのです。玉の値段は1円程度ですので、孫さんは2円で買い占めるよう部下に指示すると思います。ロボット産業を彼がプッシュして売ってくるわけです。売上高が500億で、営業利益は50億円のボール製造会社が、ある日突然製品不足に陥り、単価1円の玉を消費者が2円で買うと言い出す、という不思議な現象が起こります。仮に玉の単価が2円になると、翌年の売り上げは突然2倍の1000億円になり、営業利益は、売上げが500億円増えて、550億円になります。色々な部品で同様の現象が起きるのではないかと、私は想定しています。

仮にロボットが、人間の平均 I Q100に少し近づいたら、どのような形態価値を持ち得るでしょうか。例えば I Q60~70程度になると、コンビニエンスストアで「これは290円です。お釣りが10円です。またお越しください。ありがとうございました。」程度の会話が出来るようになります。彼らは土日休みなく働きますので、年間 $400\sim500$ 万程度稼ぎます。

ロボットは、耐用年数が非常に長いことが 特徴の1つです。頭脳が常にサーバーと繋がっ ていて、一番新しい人工知能がデータ送信さ れるため陳腐化しません。ロボットの関節が 弱ってきた場合は当然その箇所を修理しなけ ればいけませんが、人工知能のサーバーにあ るものが毎日常にアップデートされているため、 基本的にほぼ陳腐化の可能性がありません。

仮に40年間ぐらい耐用年数がある、つまり、 労働力の価値という観点から見たときに、ロボットは平均賃金500万円で40年間動くと2億円になります。つまり、現在は未熟ですが、3、4年後にペッパー君を買うと、2億円のものが20万円で買えるという状況になるのではないかというのが、私が立てている仮説です。

そうすると、新入社員を雇う必要があるか しまったのかもしれません。 という議論になります。新入社員を雇うと、 車に対して思い出を付与する 住む場所や賃金等とうるさく、年を取ると年 頼を、ロボットに対して持ち得 金は幾らくれるのだとか言って面倒ですが、 かという観点で、ロボットに ロボットは一切そういうものは要りませんし、 のではないかと考えています。

労働基準法の順守も不要です。経済全体で見たときに、経営者の考え方や企業の行動論理としては、出来るところはまずロボットでという判断を下すに違いないと考えます。

ただし、ロボットの非常に大きな特徴は、 労働力よりも、人間がハードウェアに対して 愛着や信頼感といった感情を持つという点で す。今まで世界で一番売れたロボットである ソニーのAIBOは1999年に発売し2006年に 撤退していますが、所有者は現在も溺愛して います。長年動かしていると、肩の部品がす り切れて壊れやすいそうですが、AIBO本 体は15万円であるのに対し、新しい部品はイ ンターネット上で70~80万円で売買されてい ます。壊れてしまった場合、ソニーから AIBOの修理の会社をスピンアウトしてい て、そこで修理します。しかも、1年待ちと いった状況なのです。これは実は修理ではな く治療と呼ばれています。治らない場合は、 所有者はお葬式を挙げるのです。

私たちの日常生活の中にロボットが入り込んでくると、パートナーとして考えられるようになり、愛着や信頼といったプライスレスの価値がロボットに付与されます。確かに過去を見ると、このような愛着を持つ製品は色々あります。例えば、クラシックカーは愛車という表現がありましたが、現代の車をそう呼ぶ人は多くないと思います。女子高生はスマートフォンを触っていないと禁断症状で震えるくらい大事なのに、落として割ってしまった場合に修理しようとはせず、新しい機種を買おうとします。

要するに、デジタル製品のスマートフォンや液晶テレビのファンクションに対しては利便性を感じていますが、ハードウェアそのものに愛着を持っているかというと疑問です。デジタルデバイスの中で人間性を失ってきてしまったのかもしれません。人間が家や自動車に対して思い出を付与するような愛着や信頼を、ロボットに対して持ち得るのではないかと考えています。

産業政策委員会 経営問題委員会 第 2 回合同委員会『東京視察』

産業政策委員長 野田 和郎 (㈱ハヤブサホールディングス 代表取締役) 経営問題委員長 榊原 章 (富士ゼロックス栃木㈱ 代表取締役社長)

日 時:平成29年7月28日金

視察先:日本マイクロソフト㈱

㈱ユーザーローカル

オイシックスドット大地㈱

参加人数:25名

産業政策委員会では、「栃木版 働き方改 革~人財確保と生産性向上の両立を目指し て~」、経営問題委員会では、「競争力強化の ためダイバシティの実現~人財の育成・活用 の方策~」をテーマにそれぞれ調査・研究を 進めており、関連する分野が多いことから合 同開催となりました。

【第1部】日本マイクロソフト(株)

※各委員会2班に分かれて視察

○産業政策委員会グループ

演題「中小企業の活性化と働き方改革」

講師:小出 康晴 氏

(日本マイクロソフト(株) SMB営業統括本部) 中小企業が抱える課題やジレンマを解決す るためには、ITを使ったワークスタイル変 革によるいつでも、どこでも、最適に、活躍 出来る環境の構築が必要となります。働き方 がもたらす新しいビジネス構造やオールイン



ワンのクラウドサービス「Office365」を、 実際導入している中小企業の経営者の感想等 を踏まえ、紹介をしていただきました。

○経営問題委員会グループ

演題「社員の働き方と品川オフィスのご紹介」 講師:袰谷 恵美 氏

(日本マイクロソフト(株)パートナー事業部) ワークスタイル変革の一環として、日本マイクロソフトのオフィス移転プロジェクトが行われ、社員のポテンシャルを最大限発揮させるため、テレワークを含むフレキシブルワークの導入へと変革を実施。4つの変革テーマとして、ビジョン企業文化・オフィス環境・ICT活用・制度ポリシーの変革を実施し、2010年から2015年の5年間で、事務生産性・働きがい・ワークライフバランスの数値が向上し、残業時間・ペーパーレス化・旅費交通費が削減され、ダイバーシティ100選を受賞するなど、社内外から目に見える実績を体感することができました。



【第2部】㈱ユーザーローカル

演題「自社の取組紹介、今後の事業展開、

A I について、チャットボットについて」

講師:伊藤 将雄 氏(代表取締役)

他2名

当社は3月に東証マザーズに上場をしたベンチャー企業で、データの重要性に着目し、大量のデジタルデータの収集・解析・可視化することを事業展開しています。特に今年から発売した「チャットボット(自動応答AI)」については、軽い雑談、表記ゆれにも幅広く

対応可で、今後様々なビジネスチャンスに対メリットがある。課題としては、中々二足の 応していく可能性があるとのこと。実際にコー ルセンターで初歩的な対応をチャットボット が行い、生産性向上している企業事例の紹介 もしていただきました。



【第3部】オイシックスドット大地㈱

演題「人材の流動化の方策・今後の展開、 生産性向上の事例」

講師:井原 邦博氏(人財企画室 室長) 人材の流動化については、兼業制度があり、 当社がメイン(50%以上)の場合認めている。 狙いとしては、様々な活動をしている人材を 確保しやすい、社員の視野が広がること等の

わらじを両立することは、有能な人材でも難 しいということでした。生産性向上の事例は、 スキル向上・価値観共有・環境整備の切り口 より自社社員による社内講座や社内表彰制度 等、様々なユニークなことを取り入れている こと等を御講話いただきました。



以上、日帰りでしたが大企業の先進事例や、 最新技術、人材の流動化等様々な切り口の専 門的なお話をお伺いでき、両委員会の今後の 調査研究の方向性を定める上で、大変有意義 な「東京視察」となりました。



未来経営研究会 第1回例会 群馬・長野視察

代表世話人 平野 一昭 (西部生コン㈱ 代表取締役)

日 時:平成29年7月19日(水)~20日(木)

視察①:群馬県 株式会社栄光製作所

視察②:長野県 有限会社ホテルさかえや

参加者:14名

「『革新的経営の探求』~100年企業を目指して~」をテーマに活動している当研究会では、平成27年度、28年度新・ダイバーシティー経営企業100選を受賞された株式会社栄光製作所の勅使河原社長、有限会社ホテルさかえやの湯本社長より御講話をいただいた。

7月19日(水) 視察①

株式会社栄光製作所においては、まず社員の方々の明るい笑顔と挨拶で迎えられ、社長 講話の後には社内見学を行った。

近隣の大手上場企業に人が流れ、社員が定着しないことの対策として、女性社員が活躍できる職場づくりを目指したことや1対1の教育体制によりコミュニケーションの強化を図っていること等は大変参考になった。

また、「電源管理を制する者は生産管理を 制す!」をスローガンとする、省エネ大賞を 受賞した取組みについても学んだ。



職場に活気があり、社員の方々が元気良く 働いているのが印象的であった。

7月19日休 視察②

続いて、渋温泉の有限会社ホテルさかえや に向かい、従業員の方々の温かい歓迎を受け た後、社長講話をいただいた。

「『歩』を『と金』にする経営~さかえやの働き方改革」と題した講演では、5年前に始めた経営改革をはじめ、①儲かる働き方、②意欲的に働く、③働いて幸せになる、の3つの働き方改革について御紹介いただいた。

2年連続で旅館甲子園で優勝し、その時の映像を見せていただいたが、身障者も健常者も関係なく、皆が手を取り合って仕事ができる職場づくりを目指していることが良くわかる内容であった。



旅館の従業員全員がお客様に対して明るく、 笑顔で、心の籠った対応をしていただけると ても素敵な旅館であった。

7月20日(木)

視察組とゴルフ組に分かれ、視察組は鬼押出し園、旧三笠ホテル、軽井沢ショッピングプラザを視察し、ゴルフ組は大浅間ゴルフクラブにてプレーを楽しみ、それぞれ親睦を図った。



~最後に~

視察した2社について、それぞれ人材育成 に力を入れて様々な改革を行っており、今後 の経営にもプラスになる、大変有意義な視察 であった。 社会貢献活動推進委員会 中学校・高等学校への講師派遣事業 話しことば実践講座「わかりやすく魅力的な授業の進め方」

委員長 大西 盛明 (㈱オニックスジャパン 代表取締役社長)



講師:鹿島田千帆 氏

(株)エフエム栃木 放送部長代理

【講師略歷】

学歷:神奈川県立光陵高校卒

専修大学文学部人文学科卒

国立宇都宮大学大学院工学研究科

後期博士課程修了(Ph.D,博士工学) 仕事:現在 ㈱エフエム栃木 RADIOBERRY

仕事:現在 ㈱エフエム栃木 RADIOBERRY に勤務

21歳からラジオ業界に入り、フリーアナウンサーを経て、27歳の時にエフェム栃木に入社。その後、声を科学的に研究するため社会人の大学院生として国立宇都宮大学大学院工学研究科に入学。

7年半の研究生活を経て、博士(音声工学)を取得。現在も工学、医療の両面から 声の研究に従事。

期 日:平成29年8月25日金

16:00~17:30

会 場:宇都宮東武ホテルグランデ

参加者:20名

「栃木県の次世代を担う人財の育成~キャリア教育への支援~」を活動テーマとする当委員会では、その一環として「中学校・高等学校への講師派遣事業」を実施している。話し方の技術向上のために、鹿島田千帆氏(㈱エフェム栃木 放送部長代理)を講師にお招きし、講座を開催した。

《講座目的》

社会貢献活動推進委員会の柱といえる事業である講師派遣事業は、生徒にとって教育の一環でもあり、社会との接点でもある。この事業で、会員の経験、知識、見識なりを示せるよう話し方の技術向上を目的としている。

《講座内容》

はじめに、大西委員長から派遣講師をしていただいている方も会社等で話す機会が多くあるかと思うが、今回は「話のプロ」の講演を聴き、今後の講師派遣に役立てていただければと挨拶があった。



続いて、鹿島田先生の講義が始まった。鹿島田先生は、聞き取りやすく心地いい声の研究もされており、「大きな声を出せばいいという訳ではなく、どうしたら聞きやすい声になるか」「発声の仕方にもポイントがある」などの内容も、今回の講座に取り入れて話を進めていきたいと説明があった。

今回の講話では、「①話す技術」、「②共感技術」、「③聞く技術」の大きく三つのテーマで講演をしていただいた。

① 話す技術

学校の先生は、話すことを専門職としているにも関わらず、話す声についてきちんと学んできていない。生徒からも「先生の声が聞こえない」「はっきり聞こえない」「声が暗い」などといった感想がある。話

を聞かなくなった生徒は、先生の癖や動き が気になり、授業の内容が入ってこない。



授業をするにあたり、聞き取りやすい声のトレーニングをすることが必要である。通常、呼吸は胸式呼吸であるが、授業をするときは、腹式呼吸で授業をする。また、自分の声を $2\sim3$ 音あげると明るくやる気のある印象になる。

腹式呼吸トレーニング方法

- 姿勢よく。
- 鼻から息を吸って口から細くはく。
- 難しい場合はストローを口にくわえ、 ゆっくり息をはく。

ボイストレーニング音声の変化(トレーニングすると声がアナウンサーの声に近くなる)や発声トレーニングの効果などの説明と実習もあった。さらに、腹式呼吸のトレーニングもさせていただいた。

人の第一印象というのは、見た目が一番 影響を与えるとされているが、声も努力す れば人の印象を良くすることができる。例 えば、電話で会話した時、人は声で人柄や 性格を想像している。声はその人を特徴づ ける大切なものである。

② 共感技術

授業は、自分自身の経験を話すことが大切である。他人の経験を話しても、生徒には伝わらない。また、授業を通して生徒がどのようなことに興味があって、どんな表情をしているかを観察する。そして、聞き手の共感ポイントをつかむこと。『共感ネ

タ=引き出しが増える』それが面白くて魅力的で楽しい授業につながる。

「面白い、分かりやすい、魅力的だ」という話し手は、語彙数が多い。語彙数とは、写真や映像の画素と同じものである。白黒で表現より色々な色で表現した方が、物の形・雰囲気が伝えやすい。様々な言葉を使って生徒に伝えて欲しい。そして、言葉は、心と心をつなげるものであり、共感したとき『真のコミュニケーション』につながる。



③ 聞く技術

コミュニケーションで一番大切なことは、聞くこと。聞く技術を身に付けることが必要である。『相手の顔・表情を見ていない=話を聞いていない』音だけに耳を傾けるだけでなく、相手をよく観察する。どのような表情でいるのか、何を身に付けているのか。そして、必ず褒めるところを探す。例えば、このような言葉で。「すばらしいですね。きれいですね。驚きました。」

《終わりに》

鹿島田先生が20代の頃初めて授業を行った時は、「早口になり、何を言っている分からない」とのことであった。そして、「話す内容をたくさん詰め込み過ぎて盛りだくさんになり、自分の伝えたいことが多過ぎて、生徒が何が知りたいのかまでは及ばなかった。」などとの反省もあった。このとき、「授業というのは、聞き手の心に伝わる内容でなければ、何を言っても聴いてくれない。」ということが分かったとのこと。

今回の講座は、先生の実体験を踏まえ、と ても分かりやすい内容であった。話し方の技 術向上を目指した大変充実した講座となった。

国際化推進委員会 国際キャリア開発プログラムへの協力

委員長 益子 博美 (㈱花のギフト社 代表取締役社長)

日 時:平成29年8月26日(土)~28日(月)

場所:コンセーレ(栃木県青年会館)

参加者:5名



「グローバル人財の育成」をテーマに調査 研究を行っている当委員会では、宇都宮大学、 大学コンソーシアムとちぎ等が主催する「国 際キャリア開発プログラム」への協力事業の 一環として、集中授業等へオブザーバーとし て参加した。

〈国際キャリア開発プログラムとは〉

宇都宮大学及びコンソーシアムとちぎ主催の事業で、参加者が主体的に真のグローバル人財に必要な条件や、国際キャリア形成について考えられるよう、豊富な経験を有する講師による講義を合宿形式で実施している。主に全国の学生を対象としているが、一般の参加も可能。また、高校生や社会人も毎年参加しており世代等を超えたプログラムとして展開している。

- ~セミナープログラム (抜粋)~

1日目 全体講義/ワークショップ

パネルトーク

分科会

交流会

2日目 分科会

中間発表

3日目 全体発表

意見交換/全体統括

【分科会】

分科会Aでは当委員会元副委員長の㈱光洋の生方氏が講師となり『海外で働く、起業するということ』をテーマに、参加者たちとディスカッションを行っていた。



【交流会】

交流会では、学生が積極的に参加委員に社会や企業について質問をする等、直接、企業家と話の出来る、有意義なプログラムであった。屋代副委員長は日本語、中国語、韓国語の3ヶ国語で挨拶し、多くの参加者から注目を集めていた。





社会問題委員会 第2回委員会 『東京視察』

委員長 上野 勝弘 (上陽工業㈱ 代表取締役)

日 時:平成29年9月19日(火)

場所:東京都台東区谷中、新宿区西新宿

参加者:25名

「空き家問題対策~空き家の利活用方策につ いて~」をテーマに調査研究を進めている当委 員会では、首都圏での空き家利活用の先進事 例及び空き家問題の現状や課題について学ぶこ とを目的に第2回委員会東京視察」を行った。



※近隣の集会所にて

第1部:HAGISO 代表 宮崎 晃吉 氏

前半は宮崎代表に下町・谷中での以下3段 階の事業展開について御講話をいただき、後 半は説明いただいた3事業の空き家再生物件 を3班に分かれ見学を行った。

(1) HAGISO「最少文化複合施設」

1955年(築62年)の木造アパート「萩荘 | が空き家になっていたが、2004~2011年まで 東京芸大の学生のシェアハウスとして利用さ れており、宮崎代表も利用者の一人であった。

2011年大震災を契機に大家は取壊しを決 定したが、住人の学生らによる、建物まる ごと展示空間にした芸術祭「ハギエンナー レ」で多くの人が集ったことから、解体が 一転、改修となる。

2013年、最少文化複合施設「HAGISO」(3) TAYORI(お総菜屋+カフェ) として再生。コンセプトは民間運営で日常 的な文化の発信場所。日替りで、映画館や 図書館やギャラリー等を展開している。

HAGISO がある程度ハブ的機能を持っ

てきた段階で、町全体をホテルに見立てる 構想を立てる。フロント⇒HAGISO、大 浴場⇒銭湯、土産屋⇒商店街、食事⇒お薦 めのお店、文化体験⇒町のおけいこ教室、 足⇒レンタサイクル、宿泊室⇒空き家をリ ノベしたもの (⇒hanare)。



※HAGISO 1 階の HAGICAFE 内

(2) hanare (宿泊施設)

HAGISO から徒歩1分のところに空き 家があり、所有者は福井県の人で、祖母か ら相続し固定資産税のみ支払している状況。 10年の定期借家契約で10年分の半分以上の 家賃を一括前払いし、残り分を均して払っ ていく。総体では相場より全然安い価格設 定。オーナーは、初期投資のリスク低減・ 改修費捻出、安定収入あり、空き家放置の 回避と、Win-Win の関係で事業展開を可 能とした。コンセプトは町に泊まろうで、 宿泊棟となっている。



※hanare の外観

HAGISOから徒歩5分のところに空き 家があり、オーナーから利活用の相談あり。 小庭があったり魅力的な物件で、地元の人 向けのお店を展開している。



※TAYORI の外観

(4) 宮崎氏の考え

泊まる機能以外は、全て外にアウトソー スすることで、もともとの町のプレーヤーが 活き活きしてくる。おじいちゃんやおばあちゃ んの活躍の場をデザインしていくことで、 福祉施設としての福祉ではなく、地域福祉 につながっていく可能性があるとのこと。

第2部:NPO法人 空家・空地管理センター (4) 上田代表の考え 代表理事 上田 真一氏

(1) 2つの空き家問題

一つ目は増え続ける空き家問題で、空き 家には、売却用・賃貸用・二次利用・その 他の4種類があり、その中でも放置されが ちなその他空き家が急増。(2013年318万戸 ⇒2023年500万戸)

二つ目は放置空き家の増加問題で、売却 用・賃貸用空き家は、不動産会社が管理。 二次利用空き家は、別荘管理会社が管理。 その他の空き家は、本来は所有者管理だが、

使用目的がなく管理する目的が弱い。放置 空き家は地域の景観や安全を乱す地域の問 題として捉えられている。

(2) 空き家問題の原因

高齢化の進行で今後空き家が急増する中、 住宅は増えている。新築は年間80万戸に対 し、解体は年間40万戸と言われている。 経済効果や優遇税制等があり新築を止めら れない。また、空き家の長期化も空き家増 加の一因である。

(3) 空き家ビジネスの現状

空き家の適正管理はビジネスとして成り 立っていない。その他空き家320万戸に対 し、最大手企業でも管理戸数が数百戸とい う状況。その理由は、空き家所有者はお金 に困っていないことや、サービスの創出・ 拡充が不十分であることが挙げられる。

国民の意識改革と思っている。相続する ことは、プラスもマイナスもあり、空き家 はマイナスになることが多分にあることを 理解頂く、その啓蒙活動しかないと思う。





~最後に~

今回は、都心部での空き家 という資源を活かした成功事 例及び、空き家問題の現状・ 今後と課題等の厳しい現実の 二つの切り口で議論ができ、 大変良い機会となった。限ら れた時間であったが、非常に 濃密で有意義な視察となった。

※HAGISO前での全体写真

第2回行財政改革委員会 神戸・大阪視察

委員長 岩見 髙士 (㈱浜屋組 代表取締役社長)

日 時:平成29年9月27日(水)~28日(木)

視察先:神戸市役所、神戸リゾートサービス(株)

関西日立㈱

参加人数:7名

「行財政改革と公民連携の在り方について 〜官から民への更なる流れづくり〜」をテーマに活動している当委員会では、公民連携 (PPP)の先進地である兵庫県神戸市他への視察を行った。

9月27日(水)

神戸市役所を訪問し、神戸市における公民連携(PPP)の取組みについて、同市企画調整局政策企画課技術調整担当部長の田中氏から説明を受けた。



神戸市では、公民連携事業への課題及び全 国の動向を踏まえ、平成25年4月に、民間事 業者からの公民連携 (PPP) に関する提案・ 相談を一元的に受け付ける窓口として公民連 携推進室を開設した。

様々な提案・相談が可能な広く開かれたワンストップ窓口を目指し、事業化に向けた調整を行っていることや、公民連携に関する情報の共有化・一元化によりノウハウの蓄積を図っていること等をお話いただき、質疑応答を行った。

その後は、神戸市のPFI事業の1つであ とは大変有意義である神戸布引ハーブ園/ロープウェイを視察し、活かしていきたい。

事業者である神戸リゾートサービス㈱ 支配 人の本位田氏から説明を受けた。



神戸布引ロープウェイは、新神戸駅に直結されたハーブ園山麓駅と山頂駅との間を結んでおり、海を望むロケーションと布引ハーブ園への輸送を目的として利用されている。

布引ハーブ園は指定管理者制度で、ロープウェイはPFI事業であるが、同社が一体運営を行っており、仕組みや運営状況を説明していただいた。

9月28日(木)

神戸市のPFI事業の1つである「神戸市立小学校空調整備」事業を行った関西日立㈱(本社:大阪市)を訪問し、代表取締役社長の浦長瀬氏、関東日立㈱栃木支社長の大川氏他3名の担当者の方々と質疑応答を行った。



地元企業との協働がポイントであった本事 業について、受注に至った経緯や要因等のお 話を聞くことができ、大変参考になった。 ~最後に~

2日間という短い時間であったが、視察を 通じて、公民連携の在り方について学べたこ とは大変有意義であり、今後の委員会活動に 活かしていきたい。

栃木交流研究会『奥鬼怒・鬼怒川温泉方面視察』

栃木交流研究会 会長 大曲圭一郎(大成建設㈱ 関東支店 宇都宮営業所長)

日 時:平成29年9月29日金~30日生

会場:「奥鬼怒温泉ホテル加仁湯」、「龍王 峡 |、「鬼怒川ライン下り |、他

当研究会は「栃木の歴史と文化に触れる」 を活動テーマに、栃木県内の名所・旧跡、施 設等の視察を行い、栃木の魅力を県内外に発 信するために調査研究活動をしています。

|〔1日目〕宿泊「奥鬼怒温泉ホテル加仁湯」|

視察1日目は、栃木交流研究会会員9名が 参加しました。栃木県の最北西部に位置する 日光市川俣(旧栗山村)にある奥鬼怒温泉郷 (日光国立公園内)には、八丁の湯、日光沢 温泉、加仁湯、手白澤温泉の泉質の異なる4 つの秘湯が点在します。今回、当研究会は加 仁湯に伺いました。

関東最後の秘湯と呼ばれており、広大なブナ の原生林に囲まれた温泉郷へ向かう道(奥鬼 怒スーパー林道)は、環境保全のため、普段 一般車両が通行できなくなっています。マイク ロバスでの通行は許されているので、宿までバ スで行くことが出来ました。宇都宮からバスで 3時間半。特に女夫渕温泉からの道が狭く、 参加者からも不安な表情がうかがえましたが、 日が暮れる前に無事到着することが出来ました。

到着後、「奥鬼怒温泉ホテル加仁湯」の小 松社長に、加仁湯の歴史についてお話いただ ◇5つの温泉◇ きました。



◇加仁湯温泉の由来について◇

戦前は、「蟹湯」と書きました。元々の始 まりは、明治時代、いたる所に温泉が湧き出 し、サワガニがたくさん生息しているのを見 て「蟹湯」と名付けたそうです。現社長の祖 父である小松長久さんが、昭和に入り加仁湯 のもとになる祖先館を建てます。しかし当時 は戦争時代で、戦前戦中無人小屋になりまし た。やがて戦争が終わり長久さんがシベリア から約13年ぶりに蟹湯に戻ると、無人小屋だっ たはずの温泉がほとんど荒れ果てていません でした。鬼怒沼への登山をはじめとする山の 愛好者たちが、蟹湯を守ってきたのです。そ れどころか住所氏名がそえられた宿泊料金が 神社のおさい銭のように並べてあったそうで す。長久さんは強く心を打たれ、山岳愛好者 から「仁し、すなわちひとの道を「加しえら れたことから「加仁湯」という名前に改名し たということです。



加仁湯は、泉質の異なる5本の自家源泉を 持っています。自家源泉を持っている温泉は、 栃木県内ではここだけ。そのうち4本がにご り湯です。

「利き湯 ロマンの湯」としてそれぞれの 湯を比べて入ることが出来ます。色の違いや 手触りの違いを楽しむことが出来、常連のお 客様から好評です。



夜は、6月の雨の日だけに捕れる「山椒魚」 の天ぷらを出していただき、様々な話題に花 が咲き、楽しい夕食となりました。

〔2日目〕



視察2日目も天候に恵まれ、視察日和となりました。「奥鬼怒温泉ホテル加仁湯」では、すばらしいおもてなしをしていただき、参加者のみなさまも、また来てみたいと思う栃木県内の場所の一つとなったのではないでしょうか。

「龍王峡」視察



2,200万年前に海底火山岩が鬼怒川の流れによって浸食されて出現した渓谷、龍王峡の視察に向かいました。渓谷の距離はおよそ3km。まるで竜がのたうつような景色から名づけられたそうです。渓谷美を眺めながら、散策しました。みなさん、美しい水と渓谷を写真に収めていたようです。

昼食:「鬼怒川グランドホテル夢の季」

風情ある庭を拝見しながら、おいしいお料理をいただきました。さらに「鬼怒川グランドホテル夢の季」の波木社長に鬼怒川・川治温泉郷で行うライトアップイベント等のお話をしていただきました。また、インバウンドの方々の宿泊も徐々に増加し、特に台湾・中国・東アジアからの観光客が多く来訪しているそうです。首都圏観光にも便利な温泉観光地として、外国人観光客の宿泊者数の増加に力を入れていきたいとのことです。

|「鬼怒川ライン下り」視察|

引き続き、バスで鬼怒川ライン下りの乗船 所に向かいました。大自然が造りだした渓谷 美を見渡しながら、全長約6kmの鬼怒川を和 舟で下りました。船頭さんの説明を受けなが ら、自然を満喫出来ました。

2日間にわたる「奥鬼怒・鬼怒川温泉」 の視察は、中々行く事の出来ない場所で普 段出来ない事を体験出来た視察となりまし た。参加者同士の親睦も深めることが出来ま した。



会務報告	平成29年7月~平成29年9月(敬称略)	
内容•日時	議事・報告等	出席者
第 2 回 企画運営委員会 平成29年 7 月11日(火) 15:00~17:00	検討事項 (1) 創立30周年記念事業について (2) 報道関係者との意見交換会について (3) その他 報告事項 (1) 第31回全国経済同友会セミナー栃木大会について (2) その他	21名
国際化推進委員会 第1回委員会 平成29年7月18日(火) 16:00~17:30	講 演 (1) トビタテ!留学JAPANについて ア 事業概要 イ 大学生による留学報告 議 事 (2) 平成29年度委員活動について ア 平成27・28年度委員会の主な活動について イ スケジュール確認 ウ 新規事業計画に際して	15名
第3回理事会 平成29年7月26日(水) 16:00~16:15	議 事 (1) 規定の変更について (2) 会員の新規入会について	
第2回幹事会 平成29年7月26日(水) 16:20~17:00	議 事 (1) 第31回全国経済同友会セミナー栃木大会について (2) 創立30周年記念事業について (3) コンサート事業について	41名
未来経営研究会 第 2 回世話人会 平成29年 8 月23日(水) 17:00~18:00	議 事 (1) 第2回例会(海外視察)について (2) 第3回例会(講演会)について (3) その他	14名

中学校・高等学校への講師派遣事業 (実施順、敬称略)

○鹿沼市立南摩中学校(全校生)		聴講者数
9月1日(金)	㈱下野新聞社 代表取締役会長 観堂 義憲	83名
○宇都宮市立国本中学校(2年生)		聴講者数
9月7日(木)	(㈱サンテック 取締役副社長 屋代 郁夫	130名
○栃木県立黒羽高等学校(2年生)		聴講者数
9月8日(金)	(㈱古口工業 代表取締役 古口 勇二	146名
○栃木県立佐野東高等学校(1年生)		聴講者数
9月13日(水)	㈱開倫塾 代表取締役社長 林 明夫	240名
○日光市立小林中学校(全校生)		聴講者数
9月20日(水)	㈱酒井建築設計事務所 代表取締役社長 酒井 誠	60名
○日光市立湯西川中学校(全校生)		聴講者数
10月2日(月)	㈱開倫塾 代表取締役社長 林 明夫	6名
○日光市立栗山中学校(全校生)		聴講者数
10月5日休)	(㈱古口工業 代表取締役 古口 勇二	8名
○栃木市立藤岡第一中学校(2年生)		聴講者数
10月11日(水)	㈱鈴和 代表取締役社長 鈴木 秀明	100名

ボランティアプロフェッサー講師派遣事業 (実施順、敬称略)

○宇都宮大学 工学部〔講座名:経営工学序論〕		聴講者数	
10月10日(火)	㈱酒井建築設計事務所 代表取締役社長 酒井 誠	115名	
10月17日(火)	㈱酒井建築設計事務所 代表取締役社長 酒井 誠	120名	
○宇都宮大学 全学部〔講座名:とちぎ企業人に学ぶ〕		聴講者数	
10月10日(火)	宇都宮証券㈱ 代表取締役社長 菊地 正敏		
10月17日(火)	(㈱ドコモCS栃木支店 支店長 小林 宏 (㈱ヤオハン 代表取締役社長 財田 忠典		
10月24日(火)			
10月31日(火)	関東自動車㈱ 取締役専務執行役員 吉田 元		
○作新学院大学 経営学部〔講座名:経営実践講座〕 ○111111111111111111111111111111111111		聴講者数	
10月12日(木)	㈱酒井建築設計事務所 代表取締役社長 酒井 誠	- 80名	
10月26日(木)	(㈱フェドラ 代表取締役 陳 賢徳		

栃木交流研究会事業「同友酒場」

(実施順、敬称略)

放 送 日	出 演 者		
9月1日(金)	東京海上日動火災保険㈱ 栃木支店長 西村 拓浩	(㈱ハヤブサホールディングス 代表取締役 野田 和郎	
9月8日金	損害保険ジャパン日本興亜㈱ 栃木支店 支店長 佐藤 政文	㈱TKC 代表取締役社長 角 一幸	
9月15日金	野村證券㈱ 宇都宮支店 支店長 小池 美源	オリオンコンピュータ㈱ 代表取締役 石川 尚子	
9月22日(金)	日産自動車㈱ 理事 栃木工場長 中村 卓也	㈱浜屋組 代表取締役社長 岩見 髙士	
9月29日金	アルファクラブ㈱ 常務取締役 畑 剛司	(株)安藤設計 代表取締役社長 安藤 寛樹	

※肩書きは収録当時のもの。

新しい仲間たち

- ●新入会員(敬称略・氏名50音順)
- ・平成29年7月26日 平成29年度第3回理事会で承認の新規入会者
- 1. 会 員





が 場 点 のり 板 塚 真 規 (株)TKC 代表取締役専務執行役員





紹介者 平野 一昭



た じま とき お 田 嶋 富 夫 ㈱宝栄 代表取締役

紹介者 高橋 和夫



中 山 文 仁 (旬)中山運送 代表取締役

紹介者 平野 一昭

●会員の交代(敬称略・氏名50音順)※平成29年9月末日までの交代



変更前 青木 克夫



変更前 上野 章



できた。 だまき かで **寺 田 雅 彦** リコージャパン㈱栃木支社 支社長

変更前 村松 正尚



変更前 秋葉 浩一

- ●会員の退会(敬称略・氏名50音順)※平成29年9月末日までの退会
 - 外池 茂樹 (㈱外池酒造店 代表取締役)
 - ・齋藤 靜枝(㈱ティビィシィ・スキヤツト 代表取締役会長)
 - ・斎藤 進(恂ミャ商事 代表取締役)
- ※平成29年9月末日現在の会員数は271名、準会員数は8名です。 引続き会員増強にご協力願います。